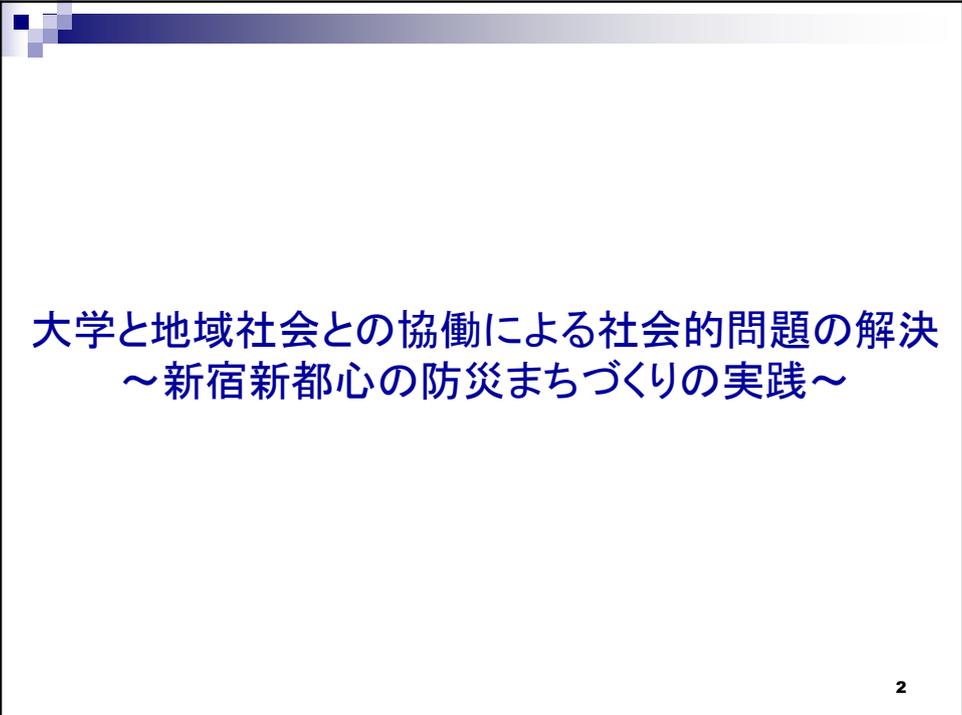


首都圏の都市防災から 見る医療クラスター

早稲田大学特命教授
伊藤 滋

2011年10月21日
第5回医療クラスターシンポジウム₁



大学と地域社会との協働による社会的問題の解決
～新宿新都心の防災まちづくりの実践～

大学との地域社会の協働による社会的問題の解決 新宿駅西口地域の防災まちづくり年表

年	新宿駅周辺駅前 滞留者対策訓練協議会	工学院大学
2008年	・1月 新宿駅周辺滞留者対策訓練実施	・1月 新宿駅周辺滞留者対策訓練に全面的協力
2009年	・3月 「新宿ルール」策定 「防災隣組」育成促進モデル事業 ・4月 「新宿駅防災対策協議会」へ名称変更	・1月 新都心の地域防災セミナー 第一回BCP委員会開催 ・10月 地域防災訓練 ・12月 新都心の地域減災シンポジウム
2010年	・7月 西口地域訓練実行委員会 第一回開催 新宿駅西口地域防災対策 及び、 新宿高層ビル街区 災害医療研究会設置 ・10月 西口にて多数傷病者訓練 実施	・5月 新都心の地域防災セミナー 災害医療のためのDCP ・9月 日赤東京都支部応急救護講習 会実施 ・10月 大学棟・その他地域の6棟自社 ビル 訓練、地域連携訓練実施

3

大学との地域社会の協働による社会的問題の解決 地域を繋ぐ災害医療地域モデル構築に向けて

日本の地域防災計画の問題点

- ① 定住人口を前提にした計画
- ② 昼間人口に関しては駅前滞留者・帰宅困難者の対策のみ
- ③ **災害医療対策は白紙**

新宿医師会と新宿区の
災害時医療救護活動に関する協定



救護活動対象を拡大
新宿区住民 ⇒ 新宿区昼間人口

工学院大学・東京医科大学・東京
女子医科大学・新宿医師会・日赤
東京支部の活動



災害医療モデル作り
新宿区内病診と非医療従事者
(事業者等)との地域連携

4

大学との地域社会の協働による社会的問題の解決 新宿駅周辺における地域業務継続計画の構築に向けて

地域業務継続計画とは・・・

業務商業地の地区あるいは地区群の全体を対象として、企業の従業員ら来街者、地域住民等の安全性を高めるとともに、立地する企業の事業継続に資するため、災害の防止や応急対応、復旧・復興のあり方について記された計画

新宿西口地域には日本を代表する「主役級」の
大学・事業者・医療機関・行政が集積



防災まちづくりにおける大学と事業者の協働
◆大学の知的資産・技術の活用
◆自社のビジネスモデルへの展開



事業者ネットワーク化

防災街づくりによる
新宿副都心の「地域の優位性」



新宿周辺事業者の「競争優位」
に繋がる地域モデルへの発展

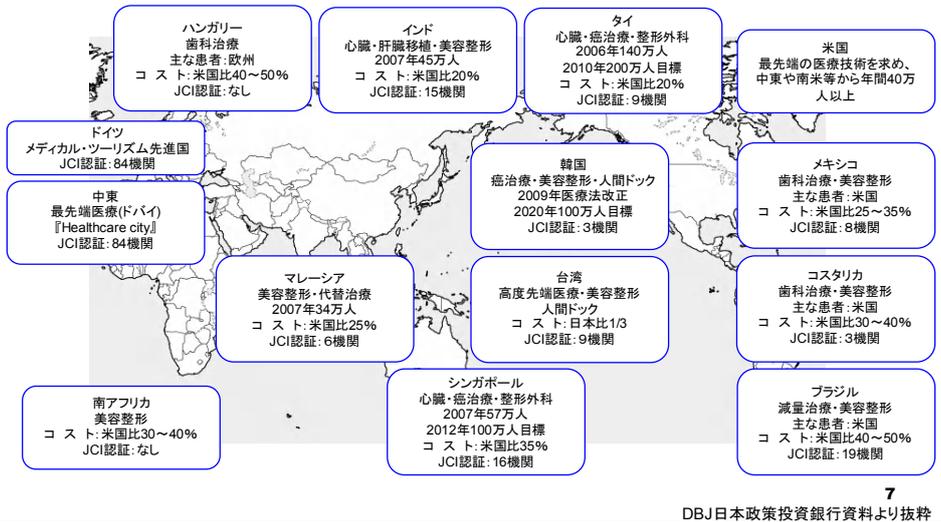
5

メディカル・ツーリズムの促進・充実

6

メディカル・ツーリズムの促進・充実

- ◆アジア・ヘッドクォーター東京に相応しいメディカル・ツーリズムの充実
- ◆メディカル・ツーリズムの動向(進む医療の国際化)
⇒すでに遅れている日本の医療整備



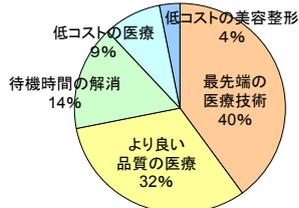
メディカル・ツーリズムの促進・充実

- ◆メディカル・ツーリズムとは、医療を受ける目的で海外へ渡航すること
- ◆渡航目的は、『最先端の医療技術』、『より良い品質の医療』が約7割
- ◆渡航先としては、アジアが多い

1. メディカル・ツーリズムの市場規模



2. メディカル・ツーリストの渡航目的



3. メディカル・ツーリストの居住地別渡航先

居住地	渡航先	アジア	北米	欧州	中東	ラテンアメリカ
オセアニア	低コストの医療	99	—	—	—	1
	待機時間の解消	45	27	—	2	26
欧州	最先端の医療技術	39	33	10	13	5
	より良い品質の医療	22	58	8	2	—
アジア	最先端の医療技術	93	6	1	—	—
アフリカ	より良い品質の医療	95	—	4	—	1
ラテンアメリカ	より良い品質の医療	1	87	—	—	12

メディカル・ツーリズムに対応した医療政策 アジアの医療政策動向

国名	メディカル・ツーリズムに関する政策等
タイ	<ul style="list-style-type: none"> ・2002年『医療ハブ』構想発表。ビザ発行簡素化。 ・タイの医療産業はGDPを上回る年率15～20%で成長 ・2008年メディカル・ツーリズム収入はタイ観光収入の約10%
シンガポール	<ul style="list-style-type: none"> ・2003年『シンガポール医療』キャンペーン開始 ・2012年目標:外国人患者受入れ100万人、医療産業をGDPの10%
インド	<ul style="list-style-type: none"> ・2002年『Global Health Destination』宣言 ・本人、同伴者が最長3年滞在可能な医療ビザ発行 ・2012年には医療産業はGDPの6.2～8.5%見込み
マレーシア	<ul style="list-style-type: none"> ・アラビア語対応による中東市場を開拓 ・医療目的の滞在期間を30日から6ヶ月へ延長
フィリピン	<ul style="list-style-type: none"> ・英語が公用語。古くからインターナショナルホスピタルがある。 ・外国人患者受入れ年間10万人が目標
韓国	<ul style="list-style-type: none"> ・2009年医療ビザ新設。メディカル・ツーリズム本格化。 ・自国民への配慮として、外国人対象入院床を上限5%までに規制
台湾	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人患者受入れ年間10万人が目標

DBJ日本政策投資銀行資料より抜粋

メディカル・ツーリズムに対応した医療政策 アジアを中心とした新たな医療拠点の整備状況

国名	場所	開発規模	特徴
ヘルスケア シティ	ドバイ	— 約200万㎡	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各国の最先端医療を集積。中東の最新医療センターを目指す ・医療分野:一般診療、糖尿病センター、リハビリ等 ・医療教育・健康部門:健康診断、スポーツ医学、健康増進センター、リゾート&スパ等 ・ヘルスケアサポート:インターネット利用による沿革医療サービス等
ヘルスケア タウン (済州国際 自由都市)	韓国	800億円 約20万㎡	<ul style="list-style-type: none"> ・北東アジアの新たな「メディカル・ツーリズム中心地」として位置付け ・観光、医療及びR&Dが連携した医療複合団地 ・韓国政府建設交通部傘下の特殊法人JDC(済州国際自由都市開発センター)が開発
燕達国際 健康城	中国 (北京)	1,500億円 約50万㎡	<ul style="list-style-type: none"> ・2010年世界最大規模の国際医療・療養総合施設としてオープン ・病院3,000床、老人ホーム12,000床 ・中国初の民間企業(燕達集団)による医療関連施設

DBJ日本政策投資銀行資料より抜粋

メディカル・ツーリズムに対応した医療政策 日本国内の動向

2009年12月閣議決定

「新成長戦略(基本方針)」にメディカル・ツーリズムに対する取組みを盛り込み
その後、経済産業省、厚生労働省、観光庁、外務省、法務省、日本経団連等が調査研究推進

潜在的な需要

- ①より良い品質の健診・検診を求める新興国富裕層
- ②最先端の医療技術を求める世界の患者
- ③低コストの医療を求めるアメリカ等の先進国ツーリスト

2020年メディカル・ツーリズム
市場規模予想(観光含む)

約5,500億円

経済波及効果
約2,800億円

高度な医療技術・設備と豊富な観光資源を有する我国は、
多くのメディカル・ツーリストを呼込む可能性が充分ある

11

メディカル・ツーリズムに対応した医療拠点構想 医療クラスター構想(築地)



12

メディカル・ツーリズムに対応した医療拠点構想 品川



13

東京湾北部地震の人的被害想定

14

東京湾北部地震の人的被害想定－1

項目	5時	8時	12時	18時	
建物崩壊による死者 (うち、屋内収容物移動・転倒)	約4,200人 (約600人)	約3,200人 (約400人)	約2,400人 (約300人)	約3,100人 (約400人)	
急傾斜地崩壊による死者	約1,000人	約800人	約900人	約900人	
火災による死者	風速3m	約70人	約70人	約100人	約2,400人
	風速15m	約400人	約400人	約600人	約6,200人
ブロック塀等の倒壊・ 屋外落下物による死者	—	約800人			
交通被害による死者	約10人	約300人	約100人	約200人	
ターミナル駅被災による死者	—	約10人	—	—	
死者合計	風速3m	約5,300人	約5,100人	約4,200人	約7,300人
	風速15m	約5,600人	約5,400人	約4,800人	約11,000人

15
角川書店「巨大地震」より抜粋

東京湾北部地震の人的被害想定－2

項目	5時	8時	12時	18時	
死者合計	風速3m	約5,300人	約5,100人	約4,200人	約7,300人
	風速15m	約5,600人	約5,400人	約4,800人	約11,000人
死者のうち災害時要援護者	風速3m	約2,000人	約2,000人	約2,000人	約2,900人
	風速15m	約2,600人	約2,600人	約2,700人	約4,100人
負傷者数(重傷者含む)	風速3m	約160,000人	約170,000人	約140,000人	約180,000人
	風速15m	約180,000人	約180,000人	約170,000人	約210,000人
重傷者数	風速3m	約17,000人	約24,000人	約2,000人	約28,000人
	風速15m	約22,000人	約29,000人	約30,000人	約37,000人
自力脱出困難者数	約56,000人	約44,000人	約37,000人	約43,000人	
帰宅困難者数	約160,000人	—	約6,500,000人	—	

16
角川書店「巨大地震」より抜粋